

## 札幌市子どもの権利委員会おすすめ本の紹介について（案）

## からすたろう

作者：やしま たろう（文・絵）  
出版社：偕成社  
特に読んでもらいたい対象年齢：小学生～大人

「うすのろ」とか「とんま」とさげすまれていたちび。ちびのすばらしさを見だしたいそべ先生。ちびがからすたろうに成長していく様子を描いた魂を揺さぶる人間賛歌の絵本です。



## 八郎

作者：文：斎藤 隆介 絵：滝平 二郎  
出版社：岩崎書店  
特に読んでもらいたい対象年齢：小学生～大人

子どもの権利を守ることはもちろん大切なことです。同時に、子どもの権利の主体となる子どもが、人間として大きく成長していくことも大切なことです。八郎は、自分が大きく大きくなりたかった理由を、村の人々を救うための自己犠牲によって見いだします。



## モモ

作者：ミヒヤエル・エンデ（訳：大島かおり）  
出版社：岩波書店など  
特に読んでもらいたい対象年齢：小学校高学年～大人  
親子で読み合うことをお勧めします。

とある街に現れた灰色の男たちによって時間が盗まれてしまい、皆の心から余裕が消えてしまうが、不思議な力を持つ少女モモが、冒険のなかで奪われた時間を取り戻すというストーリー。「時間がない」「ひまがない」と言わず、隣にいる人の話に耳を傾けられる人になりたいと思います。映画化もされています。



## 居場所のちから—生きてるだけですごいんだ

作者：西野 博之  
出版社：教育史料出版会  
特に読んでもらいたい対象年齢：中学生くらいから読めますが、主に大人

家庭・学校・地域のなかに安心できる居場所をつくろうと、多摩川(タマリバー)のほとりで、こだわり続けた「ともに生きる場」。川崎市子どもの権利条例の具現化として公設民営の「フリースペースえん」が生まれるまでの15年を綴る。子どもに寄り添いつづける西野さんのお人柄が表れる本です。わが子の将来をつい思い悩むお父さんお母さん必読！



## 「こどもの権利条約」絵辞典

作者：文：木附 千晶、福田 雅章 絵：森野 さかな  
出版社：PHP研究所  
特に読んでもらいたい対象年齢：幼児、小・中・高生、大人

こどもの権利の研究者が、こども向けにわかりやすく書いた絵辞典。豊富な絵が親しみやすく、こどもの権利の理解を助けている。大人にとっても、こどもの権利の学習や学び直しに最適の本。



## きみの味方だ！子どもの権利条約 1～6

作者：監修：林 量俣、世取山 洋介 編・著：こどもくらぶ編集部  
イラスト：ナムーラミチヨ  
出版社：ほるぷ出版  
特に読んでもらいたい対象年齢：小・中・高生、教師

こどもの権利の研究者が、こども向けにわかりやすくかつ詳細に、こどもの権利条約を解説している。札幌市内の小学校の図書館に入っている。教師にとっても、こどもの権利の教材研究のために利用しやすい。



## エリカ 奇跡のいのち

作者：文：ルース・バンダー・ジー 絵：ロベルト・インノチェンティ（訳：柳田 邦男）  
出版社：講談社  
特に読んでもらいたい対象年齢：小学校高学年～大人  
特に、近い将来父親・母親になっていくであろう中高校生



「エリカ 奇跡のいのち」は、絵本です。第二次世界大戦でナチス・ドイツがユダヤ人絶滅計画を立て、ユダヤ人を強制収容所（アウシュビッツなど）に送り込んで、毒ガスなどで大量虐殺した事件がこの物語の背景です。ナチスに捕まったユダヤ人は、家畜用の貨車に詰め込まれ強制収容所に送り込まれ、男女・年齢にかかわらず全ての人間が抹殺されてしまう状況でした。エリカは、当時生まれて間もない赤ちゃんでした。強制収容所にユダヤ人を送り込むすし詰め貨物列車の中で、エリカは母親に抱かれました。貨車が強制収容所の門を通過すれば、二度と戻ることはできません。「死」に向かう絶望的な状況でした。しかし、貨車が強制収容所に入る直前に、避けられない死への道を歩んでいることを知った母親が、せめてこの子だけでも生きのびて欲しいと願って、貨車の小さな換気用窓から、赤ちゃんのエリカを投げ捨てたのです。誰か心ある人が拾って育ててくれることを祈っての決心だったのだと思います。

赤ちゃんを走る列車から投げ出すなどということは、あたりまえの世の中では、殺人行為です。しかし、親も子も殺されるのが不可避という限界状況の中で、たとえ生きられる確率は1万分の1であっても、ゼロではない道をわが子のために選んだという母親の決意と愛のすごさに私は深く感動しました。

## 14歳の君へ

作者：池田 晶子  
出版社：毎日新聞社  
特に読んでもらいたい対象年齢：中学生とその保護者、教職員

「毎日中学生新聞」に2005年8月から2006年3月まで、連載されたものを中心に書き下ろされたもの。中学生は、いままで大人から教えられ信じていた善悪の判断基準（ものさし）に対して疑問を抱き、様々な価値観や社会観、人生観が揺れ動き不安定な時期を迎える。本当の自分・本当の友達、勉学など身近なことから、戦争や歴史、宇宙などの社会への見方、さらには愛、性、お金、幸福そして人生などについても新たな価値基準（ものさし）を探し続ける年代である。

本書は、哲学者である著者が、哲学の専門用語を用いず分かりやすくエッセイ風に、中学生が迷いやすいテーマについて「ものごとの考え方」を説き起こしている。



# 札幌市子どもの権利委員会おすすめ本の紹介について（案）

## 葉っぱのフレディ

作者：レオ・バスカーリア（訳：みらい なな）  
出版社：童話屋  
特に読んでもらいたい対象年齢：小学校中学年～大人

命の大切さが書かれていて子どもたちに読んで  
もらいたいのはもちろん、死ぬことも変化である  
といった変化もひとつの大きな題材になっているので  
大人の人たちにも幅広く読んでもらいたいと思って  
選びました。



## いいこってどんなこ？

作者：ジーン・モデシット（訳：もき かずこ）  
出版社：富山房  
特に読んでもらいたい対象年齢：幼児～小学校低学年

うさぎのバニーぼうやお母さんの会話という短く  
て簡単なお話なのですが、子どもたちは子どもたち  
らしく自分らしくいられる事が一番だと言う事を主題  
に書いていてお母さんがたが自分の子どもに読んで  
あげてほしいなと思って選びました。



## 人間喜劇

作者：ウィリアム・サロイヤン（訳：小島 信夫）  
出版社：晶文社

人生を誠実に、そして、ひたむきに生きる家族の  
お話です。子どもと大人の区別などありません。  
誰もが、生きる喜びと悲しみを抱えながら、思いやり  
を持って生きています。読み終わった後、優しさと  
寛大さに包まれたような気持ちになることでしょう。  
勇気を与えられる、不朽の名作です。



## フレデリック ちょっとかわったのねずみのはなし

作者：レオ＝レオニ（訳：谷川 俊太郎）  
出版社：好学社

みんなちょっとずつ違っているはず。そこがいい  
のです。みんな同じだと、とてもつまらなくなって  
しまいます。ちょっとかわった、のねずみの  
フレデリックが、みんなを楽しませてくれるお話し  
です。



## いのちのまつり「ヌチヌグスージ」

作者：文：草場 一壽、絵：平安座 資尚  
出版社：サンマーク出版  
特に読んでもらいたい対象年齢：すべて

今自分がここに生きていることがすごいことだと  
素直に感じるができる。あたり前のことだけど、  
普段あまり考えないいのちのつながりについて、  
絵本のしかけからもずっと心に入るすてきな本です。



## さかなはさかな

作者：レオ＝レオニ（訳：谷川 俊太郎）  
出版社：好学社  
特に読んでもらいたい対象年齢：小学生

一人一人良いところと良くないところ、得意な  
ことと苦手なことがあり、みんな違ってみんな良い  
ということを、この本を読んで感じてほしいと思  
います。カラフルでかわいい挿し絵で読みやすいので  
小学生に読んでほしいです。



## ヒロシマのいのちの水

作者：指田 和  
出版社：文研出版  
特に読んでもらいたい対象年齢：小学生

最も重大な権利の剥奪は戦争だと思います。この  
本は原爆について書かれており、多少なまなまし  
い表現もありますが、戦争の悲惨さと命の大切さを  
考えてほしいです。



## いじめでだれかが死ぬ前に

作者：平尾 潔  
出版社：岩崎書店  
特に読んでもらいたい対象年齢：中高生、  
いじめ問題にかかわる大人

著者は弁護士で、少年事件、いじめなど  
子どもに関する事件を多く手がけ、学校に向  
いて「いじめについての授業」を行っています。  
タイトルを見るとドキッとしますが、内容は、  
みずからの「いじめた経験」「いじめられた経験」  
を交え、いじめの問題点、「いじめに立ち向かう」  
実践として、子どもたちみんなにできること、親  
にできること、学校にできることなど理解しやすく  
書かれています。中高生、いじめ問題にかかわる  
大人にも、読んでいてハッとするような個所がある  
のではないかと思います。

